

令和2年度 編入学（一般入試・推薦入試）

看護学部  
看護学 (120分)

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、4ページあります。なお、下書き用紙が1枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

1 マズロー (Maslow, A.H.) が提唱した欲求段階説の第3段階について具体的に説明しなさい。  
(配点 15 点)

2 次の文章は血圧測定について述べたものである。文章中の①～⑦に該当する実数を記載しなさい。  
(配点 14 点)

マンシェットの幅は上腕の長さの ( ① ) が適当であり、成人の血圧測定では、一般に ( ② ) cm  
～ ( ③ ) cm 幅のマンシェットが使用される。収縮期血圧より ( ④ ) mmHg 加圧し、脈拍 1 回に  
つき ( ⑤ ) mmHg 程度の速度で減圧する。成人における収縮期血圧の基準値は ( ⑥ ) mmHg～  
( ⑦ ) mmHg である。

3 次の事例を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 20 点)

会社員のAさんは、42歳の男性で、一人暮らしをしている。毎日、煙草を20本吸い、缶ビール(350ml)を3缶飲んでいて、Aさんは毎週末に野球をした後、仲間と焼肉を食べることを楽しみにしている。普段は、コンビニエンスストアのおにぎりや弁当等で3食を済ませている。Aさんの身長は172cm、体重67kgである。1ヶ月前の健康診査での血清尿酸値は10mg/dLであり、精密検査を勧められたが、仕事が忙しく放置していた。Aさんは、昨夜から急に左足の親趾の辺りが赤く腫れあがり、痛みが出現し、歩けなくなったため、近所のクリニックの内科外来を受診した。

問1 Aさんの病状と生活との関連について述べなさい。

問2 Aさんに必要な生活指導について述べなさい。

4 次の事例を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 26 点)

Aさんは60歳の女性で、健康診査で血便を指摘され、精密検査のため受診した。検査の結果、直腸がんと診断され、腹会陰式直腸切除術(マイルズ手術)を行うこととなった。

問1 手術後1日目に予測される合併症を3つ述べなさい。

問2 Aさんは人工肛門を造設した。退院に向けて、人工肛門の管理について、確認する情報と指導内容を述べなさい。

5 次の事例を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 30 点)

Aさんは、79歳の男性で、74歳の妻と2人暮らしである。Aさんは米穀店を営んでおり、妻と2人で店を切り盛りしてきた。同市内に長女家族が住んでいる。

65歳ころより、健康診査のたびに高血圧を指摘されていたが、病院を受診することはなかった。

約2ヵ月前に、外出から戻った妻が、店の中で倒れているAさんを発見し、救急車で病院に搬送された。

搬送後、検査の結果、左被殻出血と診断され、内科的治療(抗浮腫薬、降圧薬、輸液)が開始された。Aさんは、急性期、回復期を経て、現在はT字杖を使用して歩行ができるようになった。

退院後の生活について、Aさんは、「家には帰りたい。でもこのままで大丈夫かな。家で何をすればいいんだろう。妻に迷惑をかける」と話した。妻は、「少しずつできることが増えているみたいで嬉しいです。でも、家に帰ってきて私一人で主人の面倒をみられるか心配です」と話した。Aさんは、これまで、長女と店のことや老後のことについて話し合ったことはない。

問 現在のAさんの自宅への退院に向けた支援について3つの視点で具体的に述べなさい。

6 次の文章は、在宅看護活動の特徴について述べたものである。文章中の①～⑤に該当する語句を書きなさい。なお、同じ番号には、同じ語句が入るものとする。(配点 15 点)

在宅看護は、対象となる療養者の住み慣れた、日常的な(①)の場において看護を提供するものである。医療施設内看護は、療養者にとって非日常的な、医療機関という集団生活の場において看護を提供している。

医療施設内看護は、療養者と医療施設との契約、また感染症法などの法的な規定により提供される。このため、医師による治療と看護師による看護が一体となった(②)が提供されている。

一方、在宅看護は、(③)をもちながらも医療を受けていない人々も対象となることがある。このようなときは、より適切な(②)を提供するしくみを対象者が活用できるように支援することから始まる。

また、在宅看護は看護職一人で訪問し看護を行うことが多い。このため看護職は、責任ある観察と判断、医師の包括的な指示による的確な医療処置の提供、看護チームや医師への（④）と連携などを、常に（⑤）に行わなければならない。

7 次の事例を読み、あとの問いに答えなさい。（配点 30 点）

Aちゃんは、5歳の女児で、発達は正常である。半年前に気管支喘息と診断され、抗アレルギー薬の服用と副腎皮質ステロイド薬の吸入をしながら、定期的に通院している。アレルゲンはハウスダストである。これまでは月に1回の通院で症状はコントロールされていたが、最近では1ヶ月に3回、起床後に発作を起こし、救急外来を受診している。

問 外来看護師として、Aちゃんと家族に必要な療養生活の指導について述べなさい。

8 次の文章の①～⑩にあてはまる適切な記号を下の枠内から1つずつ選びなさい。（配点 30 点）

- (1) 月経周期が順調な場合、最終月経の初日を0日とすると、分娩予定日は（①）日目である。
- (2) 初産婦の胎動自覚は妊娠（②）週頃である。
- (3) 妊娠初期の風疹の罹患により、胎児に（③）が起こる可能性がある。
- (4) レオポルド触診法で第1頭位の場合、妊娠中期以降、第1段法では胎児の（④）が触診できる。
- (5) 妊娠（⑤）期において、葉酸の摂取が重要である。
- (6) 分娩開始の徴候は、陣痛周期が（⑥）分以内になることである。
- (7) 胎盤娩出後、（⑦）が血中に増加し、乳汁分泌が始まる。
- (8) 後陣痛は（⑧）を促進する役割があり、産褥0～3日頃に見られる。
- (9) 初乳には高濃度の（⑨）が含まれている。
- (10) 子宮が非妊時の大きさに戻るのは分娩後約（⑩）週である。

【選択肢】

ア	プロゲステロン	イ	オキシトシン	ウ	プロラクチン	エ	3～5	オ	6～8
カ	9～11	キ	14～16	ク	18～20	ケ	24～26	コ	胎盤娩出
サ	子宮復古	シ	1型糖尿病	ス	臀部	セ	頭部	ソ	児背
タ	四肢	チ	乳汁分泌	ツ	初	テ	中	ト	後
ナ	ガラクトース血症	ニ	先天性心疾患	ヌ	10	ネ	15	ノ	240
ハ	280	ヒ	320	フ	IgA	ヘ	IgE	ホ	IgG

9 次の事例を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 20 点)

Aさん(20歳、女性)は、一人暮らしで大学に通学しているが、最近、友人との関係がうまくいかず、悩んでいた。半年ほど前から戸締りや火の元を何度も確認するようになり、大学の講義の開始時刻に間に合わないことが増えてきた。また、手を何度も洗うようになり、手荒れがひどくなってきている。Aさんは母親に強迫行為がやめられず不安だと話したため、心配した母親が付き添って受診し、強迫性障害と診断された。Aさんが自宅だと落ち着かないため、入院してゆっくり休みたいと入院を希望し、任意入院となった。

問1 入院3日後、Aさんは何度も手洗いを行っている。手洗いを終え、病室に戻ったAさんに対する看護師の適切な対応を2つ述べなさい。

問2 入院5日後、Aさんの母親は面会の後、「一人暮らしをさせなければよかった、自分のせいだ」と疲れ切った様子で看護師に相談してきた。看護師の母親への適切な対応を2つ述べなさい。